八戸工業高等専門学校

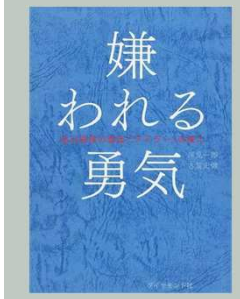
# NEWSLETTER

R４年度第1回　11月2日(水)

発行：マテリアル･バイオ工学(C)コース図書委員会

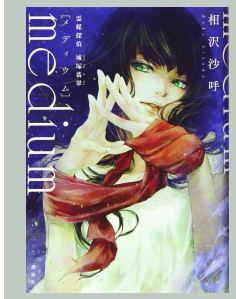
C･Zコースの図書委員と先生がおすすめの本を紹介します。

## 『嫌われる勇気』古賀史健　岸見一郎（L3-10 松村仁瑛）



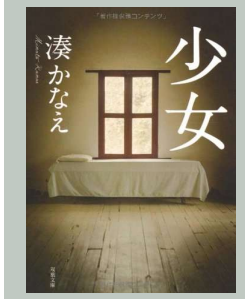

もしも心理学者アドラーが上司だったら。上司アドラーと青年のやり取りから分かる、悩みごとや心のなかに芽生える疑問、それらを現実世界の情景を用いて解決してくれる。
例えば、あなたはコーヒーを誤ってかけられてしまいました。かけてしまった相手は「本当にすいませんでした。クリーニング代もはらいます。」と必死に謝りました。
その時あなたはどうしますか？怒りますか？許しますか？
もしも怒ってしまうのならあなたは『怒り』という感情をつかって自分を正当化しています。もっと違うアピールの仕方を考えましょう。
きっとあなたの人生感が変わる。読んで損なしの良本です。是非読んでみてください。

## 『medium 霊媒探偵城塚翡翠』相沢沙呼（L4-40 竹内柊弥）




推理作家香月史郎と霊媒を名乗る女性城塚翡翠が事件を解決していく物語です。霊媒の能力は「死者の言葉を伝えることができる」です。しかし、そこに証拠能力はないため香月は霊視と論理の力を組み合わせ事件を解決していきます。
ここまで聞くと「ただの推理小説じゃん。」などと思う人もいるかもしれません。しかしこの本は違います。最初から最後まで伏線が貼られていて最後の伏線回収はおもわず声を出してしまいました。これ以上の驚きは味わったことがありません。
この本を見つけたら是非読んで下さい。そして自分の目でこの衝撃を味わってみて下さい。

## 『少女』　湊 かなえ（C2-23 高渕紗也）




親友の自殺を目撃したという転校生の告白に衝撃を受けた由紀と敦子は「人が死ぬのを見てみたい」という衝撃にかられる。夏休み、二人は相手に告げずにそれぞれ老人ホームと小児科病棟で働く。少女たちの好奇心はどんな結末を迎えるのだろうか―
この本のなかで私が好きなところは10代の彼女たちの生々しい感情が描かれているところである。思春期ならではの心情をとてもうまく、恐ろしく表現できていてどんどん読み進めてしまった。この本は17歳までにはぜひ読んでいただきたい1冊だ。

## 『ルポ　誰が　国語力を殺すのか』石川　光太　（G科 平川武彦）

私は、現在は非常勤講師として、３、4年生に「現代社会」「科学技術社会論」「産業と経営」、専攻科２年生に「技術者倫理」を担当しています。常勤時を含め40年を超える時間を高専で過ごさせていただきました。近年強く感じるのが、答案や課題の文章が短くなり、語彙力と漢字力の弱い学生の出現です。本書を読み、このもやもやが晴れた気がしました。高専の学生の皆さんにとっても、たいへん役に立つ知見に満ちた本であり、一読されることを勧めます。内容は、国語力とはなにかから始まります。文部科学省の定義によると、国語力とは「考える」「感じる力」「想像する力」「表す力」の四つの中核からなる能力となっています。幼児期から青年期への発達（成長）時に、「国語の知識」の内の語彙力を基礎（第一層）として、（第二層として）論理的思考能力（考える力）、その上に（最上層）情緒力･想像力（感じる力･想像する力）がある。そして、全体に関連するのが「表す力」となる。著者によれば、「国語力とは、社会という荒波に向かって漕ぎだすのに必要な「心の船」だ。語彙という名の燃料によって、情緒力、想像力、論理的思考力をフル回転させ、適切な方向にコントロールするからこそ大海を渡ることができる」ということとなる。そして、教員や子供に関わる多くの人が、感じる、想像する、表現するといった力が不足している生徒が明らかに増えていると感じているという。私も同感です。「子供たちの国語力は本当に失われているのか。だとしたら一体、誰が、何が、なぜ、国語力を殺したのか。子供たちの国語力を回復させるには、どのよう取組みが必要なのか。」という観点で、「格差と国語力」「教育崩壊」「SNS言語の侵略」「（不登校児の）フリースクールでの再生」「（ゲーム世界）ネット依存からの脱却」「非行少年の心に色彩を与える－少年院の言語回復プログラム」の背景や実情を具体的な例を交え、そこからの対策を含め論じている。非行少年に関連して仙台市にある女子少年院「青葉女子学園」が取組み例として紹介されている。特に「表現教育」に定評があるという。私が、45年以上前の学生時代に「臨床心理学」の施設見学で訪問した記憶（強い印象）がよみがえり懐かしさと、同時に、数十人から数人へと収容数や収容生の状況や背景の変化に時代の移変りを感じました。この本の後半では、「小学校はいかに子供を救うのか－国語力育成の最前線１」「中学校はいかに子供を救うのか－国語力育成の最前線２」で、国語力育成の具体的実践例が報告されている。子供を取り巻く状況が大きく変化する中、核家庭では対応しがたいものに対して、地域社会や社会全体での受け皿形成や制度設計が不十分な日本では、子供にしわ寄せがより強くでている。グローバル化で外国人家族やシングルの親家庭、経済格差の拡大、DV、ヤングケアラー、イジメやネット・ゲーム依存、不登校など、さまざまな問題があるが、国語力を獲得することが生きる上で重要であることがさまざまな例を知ることで強く感じられました
　国語力に関して多くが良い状況にいる高専生にとっても考え、感じ、想うことが多くある本と思います。

八戸工業高等専門学校

# NEWSLETTER

R４年度第1回　11月2日(水)

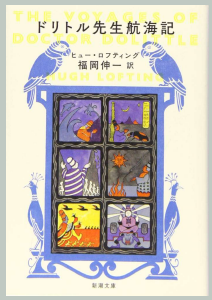
発行：マテリアル･バイオ工学(C)コース図書委員会

C･Zコースの図書委員と先生がおすすめの本を紹介します。

## 『さよなら世界の終わり』佐野徹夜（Z2-12 佐々木美月）

ある出来事をきっかけに、３人にはある能力が備わった。死にかけると未来が見える主人公・間中、手首を切ると幽霊が見える青木、死にかけると人を洗脳できる天ケ瀬。いじめ、虐待、大切な人の死という現状から、つらさ、痛み、悲しみ、絶望を乗り越えていく物語。「君は月夜に光り輝く」の著者の原点でもあるこの作品。つらい思いを感じたことのある方に是非読んでもらいたい作品です。

## 『ドリトル先生航海記』ヒュー・ロフティング（C3-28 沼田春海）




イギリスの小さな町に住む少年トミー・スタビンズは、動物と話すことができる博物学者ドリトル先生と動物たちに出会い、ドリトル先生の助手になる。ある日、彼等は海の上を浮いて漂うクモサル島で行方不明になった偉大な博物学者ロング・アローを探すため、冒険の旅に出る。
優しく温かなドリトル先生や、動物たちの皮肉がきいたセリフ、美しい冒険の描写など、時間を忘れて読んでしまうお話です。ぜひ読んでみてください。

## 『1リットルの涙』木藤 亜也（Z3-19 白井鈴夏）

「病気はどうして私を選んだの？」
恐ろしい病魔が15歳の亜也さんの青春を奪って行く。
木藤亜也さんー笑顔が素敵で将来の夢はお医者さん。
何より人の役に立ちたいと願う優しい少女だったが、
ある日突然「脊髄小脳変性症」という病気にかかってしまう。
努力すれども悪化の一途を辿る症状。
動かなくなっていく体。伝えたいのに伝えられないもどかしさ。
そして社会から向けられる厳しい視線。
この本には亜也さんの魂の叫びが綴られている。

## 『夜は短し歩けよ乙女』森見登美彦（C4-37 關川華帆）

「黒髪の乙女」に想いを寄せる「先輩」。物語では、この2人に数々の珍事件が待ち受けます。軽妙な文回しで先輩が語るのは、多くの登場人物に彩られた黒髪の乙女の冒険談。物語を読み終わった頃には、皆が彼女の虜になることでしょう。

## 『1%の努力』ひろゆき(西村博之)（Z4-32 佐藤和美）

この本はネット匿名掲示板「2 ちゃんねる」の開設者であるひろゆき(西村博之)が経験を通して得た知識、「前提条件」「優先順位」「ニーズと価値」「ポジション」「努力」「パターン化」「余生」の７つのエピソードとそれらから学んだこと、判断軸・考え方が紹介されている。
例え話が多く使われていて理解しやすく、著者の経験談も多いので説得力がある。人生を幸せに過ごすために大切なことやマインドの置き方を教えてくれる。また、いい子になるための自己啓発本ではないので親近感が湧いた。少しの思考の転換で世渡り上手や、効率的な努力ができるようになると思うので是非読んでみてほしい。

## 『スマホ脳』 アンデシュ･ハンセン（C5-31髙木幹太）

スティーブ･ジョブズはなぜiPadを我が子に与えなかったのでしょうか？スマホ中毒者のうつ、不眠、依存などの原因を脳科学の研究によってあぶりだします。
みなさん、ちょっと自分のスマホのスクリーンタイムを見てみましょう。私の今日のスクリーンタイムは6時間です。これは人生の4分の1をスマホに費やしてることになります。恐ろしいですね。なんでもいいのでランニング、料理、読書、筋トレなど、他に趣味を持つと良いかもしれませんね。

## 『読書と人生』 寺田寅彦（Z5-23 樋口志保）

近代市民精神の発見ともなった「丸善と三越」をはじめ、「読書論」「人生論」「科学に志す人へ」「わが中学時代の勉強法」「アインシュタインの教育観」「『徒然草』の鑑賞」など29篇を収録した一冊です。入学当初から、専門的な分野を中心に時間を割いてきた高専生にとって文学的な素養を学べるチャンスは読書にあると考えます。私が紹介する寺田寅彦は物理学者にして、優れた随筆家であることから、学生である私達も今から知識・教養を身に着けることにマイナスな点はないと思います。

気になる本があったらぜひ読んでみてください